

1. 職名・氏名 教授 杉村 和彦2. 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 京都大学、授与年 2003年

3. 教育活動

| |
|---|
| (1)講義・演習・実験・実習 |
| ①担当科目名（単位数）主たる担当年次など 文化人類学（4単位）毎年開講）1－2年生 |
| ②内容・ねらい（自由記述） 本年度の講義では、人類史の中心をなした主要な生活様式として、狩猟・採集民、牧畜民、農耕民などの民族集団を取り上げ、その集団の自然観、労働観、互酬性などの文化的特性について考察する。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） この講義では、映像、写真を多用し、できるだけ学生に、現場のリアリティを持ってもらうよう努めている。また一地域、一民族の事例が有する、普遍的な意味について、解説するとともに、同時に、現代社会とのつながり、日本文化との関係を提示し、様々な事例が、日常生活とつながる側面について理解できるように努めている。 |
| ① 担当科目名（単位数）主たる担当年次など 地域特別講義 「匠と現代」（4単位）毎年開講）1－2年生 |
| ② 内容・ねらい 本講義は福井の文化の一つの核である伝統工芸（和紙・漆、刃物など）の伝統と展開を、オムニバス形式で当代一流の匠たちに登壇していただき、世界に発信しうる地域文化の意味を比較の視点からとらえ直す。同時に、モノ作りにかけた幅の広い匠たちの生き方・考え方を通して現代社会における真の「仕事」とは何かを考える機会にする。また地域未来学として現代社会におけるそれぞれの伝統工芸の発展の可能性をスピーカーとともに受講生とともに考える。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 この講義では多くのスピーカーに登壇していただき、その生の声を聞いてもらうことを日等の軸においてきた。ただそれぞれの匠の技術的理解などは、匠の話聞く前提として知識として持っておくことも必要であり、そうした話もたくみの話の前におくよう工夫をした。 |
| ① 担当科目名（単位数）主たる担当年次など 導入ゼミ（2単位）毎年開講）1年生 |
| ②内容・ねらい 1. アフリカに関する知識を深める。 2. 情報の収集、まとめと発表の方法を学ぶ 3. アフリカの社会・文化・歴史・自然などについて、討議を通して再検討することにより、世界についての新たな認識を得る。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 この授業を通して、アフリカをぐっと身近なものにしてもらいたいと考え、アフリカの社会・文化・歴史・自然などの概要をタンザニアという一つの国を中心に学び、参加者の関心に基づく研究発表によって、大学生にふさわしい学習・研究法を学ぶ。 |

①担当科目名（単位数）主たる担当年次など
教養ゼミ（2単位）毎年開講）1年生

② 内容・ねらい “

近代世界”は、アフリカの社会・文化を後れたものとして扱い、歴史なき世界として、アフリカの停滞した世界像を描いてきた。しかし今日、近代の世界像の揺らぎの中で、アフリカの文化・社会の特質と意味が再検討されつつある。アフリカという辺境の歴史的世界からわれわれの世界を考え直す契機とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

このゼミではヨーロッパを軸とした歴史記述の中で、これまでほとんど知られていないアフリカの歴史を身近なものにするため、アフリカでの歴史の動きを同じ時代の日本の歴史やヨーロッパの歴史とも対比しながら、比較史の中で世界史の中のアフリカの位置と特質を考えていくよう工夫した。

①担当科目名（単位数）主たる担当年次など
比較の視座からの健康長寿学
地域志向科目

②内容・ねらい（自由記述）

日本一の福井の幸福度を支え、日本の中で高い水準を誇る福井の健康長寿現象を地元の永平寺地域、北陸、日本、世界との比較の中で捉え直す。本講義では、学際性、総合性を基調とし、地域間比較のダイナミックな視点の面白さを「健康」と「長寿」ということがらを軸として学ぶ。

②内容・ねらい

福井の地域特性を健康長寿という現象を通して、その地域間の比較のなかで捉える視点を持つ（福井の普通の人の生き方が、世界の中でも結構ユニークで面白いことを学ぶ）。比較の視点を柔軟に使いこなすことを通じて地域の特性を捉える目を養う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

福井県の「健康長寿学」を「ソーシャルキャピタル（社会関係資本＝人間関係の深さ）」を軸に、世界の広がりの中で考える講義です。

① 担当科目 学術ゼミ

現代社会の新たな文化・社会現象の内在的理解を目指して、各種文献を詳細に読み解く。

②時代の転換の中でアフリカが有する潜在力・可能性について思考をめぐらせ考える。

③ 1つの地域社会を総合的・学際的に理解する方法を学ぶ。

④ アフリカを深く理解していくためにアフリカの言語（スワヒリ語の初歩に関してもまなぶ機会を持つ。

本ゼミでは、「アフリカから学ぶ」という視点のもとに、参加者全員で議論を行う。「アフリカは面白そう」という人にも、「アフリカから学ぶことなんてあるのだろうか」という人にも是非一度門戸をたたいてほしい。人類の未来に向けて、アフリカが有する潜在力・可能性をゼミ生とともに考えてゆきたい。

(2)その他の教育活動

4. 研究業績

| | |
|---|------|
| (1)研究業績の公表 | |
| ① 著書 【アフリカから農を問い直すー自然社会の農学を求めて】京都大学学術出版会 【食の文明誌ーホモ・サピエンス史から探る】農文協 | 【2本】 |
| ② 学術論文（査読あり） | 【本】 |
| ③ その他論文（査読なし） | 【本】 |
| ④ 学会発表等 | 【件】 |
| ⑤ その他の公表実績 | 【本】 |
| (2)科研費等の競争的資金獲得実績 | |
| (3)特許等取得 | |
| (4)学会活動等 | |

